

第8回（平成26年度）栃木県元気な農業コンクールいきいき農村部門受賞者紹介

☆ 女性・高齢者活動の部

(1) 審査経過

女性・高齢者活動の部は、各地から女性の組織活動が5事例、高齢者活動は個人活動が1事例の合計6事例の応募があり、いずれの事例も、男女共同参画、高齢者の社会参画の域を超え、起業の主体となって活躍しており、まさにいきいきと農村の活性化を担っている事例ばかりでした。

審査委員会では、①自主的努力と創意工夫、②推進体制の整備と運営、③男女共同参画・高齢者社会参画の状況、④地域の農業振興や活性化への寄与の4つの視点から審査を行いました。第1次審査では、応募書類を中心に5人の審査委員が、委員間の討議を勘案して評価・判定を行い、上位の事例に関しては現地調査によるヒアリング調査を踏まえ、最終判定を行いました。

(2) 受賞組織の概要

● とちぎ元気大賞（栃木県知事賞・関東農政局長賞）

渡辺 和美 氏（塩谷町）

平成14年に栃木県女性農業士の認定を受け、農村女性組織の中心として、男女共同参画や食と農に関わる様々な活動により、女性の地位向上と地域の活性化に大きく貢献されています。

これまでの主な活動として、地域の農産物を取り入れたメニューを提供する「農村レストラン尚仁」の立ち上げ、しおや生活研究グループ協議会長として「子ども農村体験プロジェクト事業」の受入れや学校給食への地域食材提供などの食育活動等、非常に多彩で幅広い活動を行っています。

また、町農業委員、JAしおのやの理事としても活躍し、まさにいきいきと活動され、リーダーシップを発揮しながら地域を牽引し、中心的な役割を担っている点が高く評価されました。

● とちぎ元気賞（栃木県知事賞）

野口 實 氏・すみえ 氏（上三川町）

生涯現役で、中途半端にならないようにしたいとの高い理念の基、54歳で早期退職し、農業者に転身されました。栽培については、独自の研究と創意工夫を重ね、早い段階で安定した経営を実現されました。

当初はきゅうりを栽培していましたが、市場出荷のほか直売所、スーパーとの契約取引など販路を拡大していくとともに、栽培品目も増加させていき、現在では野菜・果樹など年間40品目を栽培しています。平成25年には地産地消推進店である洋菓子店にレモンを提供し、提携商品が誕生しました。

また、地域の小学校からの依頼を受け、作物の栽培についての出前講座の実施や、現地見学の受け入れなど、食育活動に協力されており、取り組みの内容が今後の高齢化社会に対する模範となる事例として高く評価されまし



食育調理実習



食育紙芝居



レモンのハウス



直売所に出荷

た。

● 特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

栃木市農村女性会議（栃木市）

「とちぎ市農業・農村男女共同参画ビジョン」の実現を目指し、栃木市内の農村女性組織の連携や情報交換を密にしながら一体となり、女性の積極的な登用に向けての活動を行っています。

主な活動として、農村女性セミナーの開催や、加工に関する研修会、男女共同参画、食の安全・安心に関する情報交換会などを実施しており、これまでに女性農業委員会、女性農業士、女性企業グループ等各リーダーが誕生しています。

次世代女性農業士の育成等、後継者の育成にも積極的に取り組んでおり、農村女性および地域の活性化の一翼を担っている点が高く評価されました。



研修会の様子



現地視察研修

● 特別賞（下野新聞社長賞）

虹色の里あじ彩（茂木町）

里山の原風景が残る河又地区において、閉校した小学校の跡地にオープンしたレストランおよび花の体験工房で、木須川の鮎や朝採り野菜を使ったランチや、石釜で焼くピザを提供しています。また、ドライフラワーによるリース作りや苔玉作り体験など、里山の自然を切り取ったような作品作りが体験できる場となっています。

宇都宮市内の保育園・高校・大学と連携した農業体験の受け入れや、景観保全ボランティアの受け入れなど、都市農村交流活動にも積極的に取り組んでおり、地域住民の新たなコミュニティの形成や食育の場としての役割を果たしている点が高く評価されました。



提供しているランチ



ドライフラワー作り